

平成 30 年 4 月 2 日

平成 30 年度 稲荷教育

京都市立稲荷小学校
校 長 大野 利和

平成 30 年度 京都市学校教育の重点

＜京都市の目指す子ども像＞

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」

- ◆ 京都が育んできた伝統と文化に立脚し、
広い視野と豊かな感性をもち、よりよい人生や社会を創造する子ども
- ◆ 学校教育をはじめ様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たす子ども
- ◆ 多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となる子ども

＜学校教育において重視する視点＞

- ◆ 子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める
- ◆ カリキュラム・マネジメントの視点のもと、PDCA を意識し、教育課程に基づき、組織的かつ計画的に日々の教育活動の質の向上を図り、子どもの姿や地域の状況に応じた創意あふれる取組を展開する
- 1 学習意欲を高める授業を通して、自ら学びに向かう力を育む
- 2 毎日の家庭学習により、主体的な学びにつながる自学自習の習慣化を図る
- 3 自他を大切にする態度を育成する
- 4 「公共の精神」に基づく態度を育成する

＜学校運営の柱＞ ～全教職員で進める確かな学校教育～

①子どもの命を守りきる ②すべての教職員がカリキュラム・マネジメントの視点をもって実践を進める ③教育者としての職責を自覚し、専門性を高めるとともに、働き方改革を進める ④校種間連携・接続を推進する ⑤「困り」を抱える子ども一人一人に対する支援を行う ⑥保護者・地域と連携・協働した取組を推進する ⑦関係機関など社会と連携した総合的・継続的な支援を展開する

本校が目指す教育

I 学校教育目標

いきいき なかよく りそうに向かって 考動する子

II めざす子ども像

い な り	「いきいき」	○心も体も元気な子
	「なかよく」	○命ときまりを守りきる子
	「りそうに向かって」	○目標をもって自ら学び続ける子
	「いなり」	○学校・地域を愛する子
◎「 <u>考動</u> する」…「 <u>考えて行動</u> する」		

III 学校教育目標の具現化

